

## 多汗症

「多汗症に効く薬ありますか？」

ある日突然、医院より電話があり、戸惑いました。

とっさにグランダキシンをお勧めしましたが、他にもっといい薬があるのではと思い、詳しく調べてみました。

### ➤ 多汗症とは・・・

「必要以上にたくさんの汗をかく病気」

特に、緊張した時や驚いた時にかく**精神性発汗**（**エクリン腺**からの分泌）による汗の異常。中でも手の平や足の裏に限定して大量に汗をかく場合は、「**手掌足蹠多汗症**（しゅしょうそくせきたかんしょう）」という。脇の下や顔面を伴うこともあるが、体からはあまり汗が出ない。

### ➤ 多汗症を治療するには？

#### ●心身療法

主にカウンセリングによって汗に対するマイナス意識を変えていったり、自律訓練法によって自律神経（交感神経や副交感神経）の働きを整えるなどの療法を行う。

#### ●制汗剤の使用

#### ●手術による治療

発汗を作用している交感神経をブロックする。手の平の汗を止める場合、「**胸腔鏡下交換神経切除術**」と言われる胸腔鏡（スコープ）を使って胸部交感神経を遮断する手術を用いる。全身麻酔をし、脇の下の皮膚を2～4mmほど切って行われる。傷口が小さく、手術時間も短いため、患者への負担は少ない。

同様に、足の裏の汗を止めるには、腰椎の交感神経をブロックする手術がある。

ただし、どちらの手術も手のひらや足の裏の汗はストップされるものの、術後、手のひらや足の裏以外の部分から汗が出る代謝性発汗（反射性発汗）が起こることがある。しかし、手術の前に代謝性発汗を予測することは難しく、かなり個人差がある。

## ●薬物療法

### ●自律神経作用薬

交感神経が興奮したときにアセチルコリン (Ach) が多く分泌されて多汗症の症状が強くなる。交感神経の過剰な興奮を抑え自律神経の乱れを整える薬 (自律神経調整剤) のトフィソバム (グランダキシム) 等が多汗症治療に使われる。多汗症につながるのぼせ・発汗・頭痛・動悸などの症状も抑える。

### ●抗不安薬

不安や緊張を和らげ、多汗症の症状を緩和。毎日使用、または不安になりそうな状況が予想される時だけ使用するのも有効。

### ●抗コリン剤

汗は交感神経から汗腺に Ach が放出されて汗が出る。Ach の働きを抑えれば汗が減少し、多汗症の症状が緩和される。Ach を抑える抗コリン剤 (神経遮断薬) は全身に作用するため、局所多汗症に限らず全身性多汗や代償性発汗に対しても働く。

多汗症の治療薬として認可されている神経遮断薬は**プロ・バンサイン**のみ。

神経遮断薬のため、口渇、眠気、胃腸障害、便秘、調節麻痺性視力障害などの副作用が強い。Ach はふつう副交感神経の末端から出る伝達物質なので、抗コリン薬は副交感神経遮断薬に分類される。

抗コリン薬は現在、副作用の強いものから弱いものへと改良されてきている。汗を止めるのは抗コリン薬の副作用なので、新しい薬ほど制汗作用は弱くなっている。

## プロ・バンサイン Pro-Banthine

### ◇成分 (一般名)

臭化プロパンテリン **propantheline bromide**

[アトロピン系鎮痙剤]

(分類) 抗コリン性鎮痙四級アンモニウム塩

### ◇特長

- 多汗症の治療薬として認可されている唯一の神経遮断薬。
- 作用時間は短いですが、即効性はある。
- 効果のない人もいる。
- 全身に作用するので、全身多汗、代償性発汗に使える
- 口渇、調整麻痺性視力障害、便秘、眠気、頭痛などの副作用あり。  
→連用には向かず。
- 緊張する前など、特定の場面にのみ服用する、というような使い方も可

➤ 実際の症例

Pt : A さん (FM) 43 歳、職業 Dr

2009/11/30 初回

◇ Rp グラндаキシン 3T 分3 7日分

A さん「とにかく暑い、暖房効いている部屋はたまらない、さらに緊張するとバツと汗が出る。他にもいい薬があれば試してみたいので探してください」との事。  
(この後、プロ・バンサインがある事を知り、Dr に薬を紹介)

2009/12/2 2回目

◇ Rp プロ・バンサイン 3T 分3 7日分

A さん「グラндаキシンを服用した所、よく効いたが、眠気が強い。  
いい薬があると連絡受けたので本日受診。  
明日、とても緊張する場面があるので早速試してみます」と。

2009/12/16 3回目

◇ Rp グラндаキシン 3T }  
プロ・バンサイン 3T } 分3 21日分

A さん「よく効いた、ありがとう。今後もグラндаキシンと調節して服用します。」

➤ 服薬指導から (まとめ)

プロ・バンサイン用量について、原則的には1日3錠(朝・昼・夕)だが、汗を抑制させたい時の1時間前にまず1T服用。服用後30分ほどで効果発現するので、1錠で効果の薄い場合はもう1錠、最大3錠まで、併発する副作用の具合と相談しながら用いるように、と指導した。

最後に「よく効いた、ありがとう」と言われた時は、患者さんのお役に立ててよかった、と思った。今回はたまたま患者が Dr だったため、薬の服用に積極的で、起こりやすい副作用に関しても容易に理解が得られ特に問題なかった。

他の患者さんにも服薬指導する機会がこれからあると思うので、今回勉強した事を生かしていきたい。